

素案からの変更点

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>目次</p> <p>第2節 地球環境時代を<u>リード</u>し自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>第1章 計画策定の意義</p> <p>第2節 新たな北海道総合開発計画の意義</p> <p>国から地方へ、官から民への流れの中で、各主体はそれぞれの役割分担と責任を自覚しつつ、北海道の地域特性を踏まえた将来の豊かな社会づくりのために<u>共通のビジョン</u>を持ち、同じ方向性の下に各自の取組を進めていくことが重要である。</p> <p>第2章 計画の目標</p> <p>第3節 今後の北海道開発の戦略的目標</p> <p>3. 地域力ある北の広域分散型社会～多様で個性ある地域から成る北海道の実現 北海道内の各地域において、高品質な農水産品を内外に供給する地域、世界的に価値ある自然資源を保全し観光に貢献する地域、東アジア地域への<u>ゲートウェイ</u>として生産・物流の拠点となる地域など、優れた特色ある地域資源を活かした地域づくりを進める。</p>	<p><u>表紙の追加</u></p> <p>目次</p> <p>第2節 地球環境時代を<u>先導</u>し自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>第1章 計画策定の意義</p> <p>第2節 新たな北海道総合開発計画の意義</p> <p>国から地方へ、官から民への流れの中で、各主体はそれぞれの役割分担と責任を自覚しつつ、北海道の地域特性を踏まえた将来の豊かな社会づくりのために<u>ビジョン</u>を共有し、同じ方向性の下に各自の取組を進めていくことが重要である。</p> <p>第2章 計画の目標</p> <p>第3節 今後の北海道開発の戦略的目標</p> <p>3. 地域力ある北の広域分散型社会～多様で個性ある地域から成る北海道の実現 北海道内の各地域において、高品質な農水産品を内外に供給する地域、世界的に価値ある自然資源を保全し観光に貢献する地域、東アジア地域への<u>玄関口</u>として生産・物流の拠点となる地域など、優れた特色ある地域資源を活かした地域づくりを進める。</p>	<p></p> <p></p> <p>2</p> <p>5</p>	<p></p> <p>24</p> <p>20</p> <p>5</p>

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>第3章 計画推進の基本方針</p> <p>第2節 計画の主要施策</p> <p>第2の戦略的目標である「森と水の豊かな北の大地～持続可能で美しい北海道の実現」のため、地球環境時代を<u>リード</u>し自然と共生する持続可能な地域社会を形成する施策に取り組む。</p> <p>第3節 計画の進め方</p> <p>2. 新たな時代を見据えた投資の重点化</p> <p>3. 新たな北海道イニシアティブの発揮</p> <p>北海道の優れた資源・特性を活かし、全国画一ではないローカルスタンダード導入による、北海道固有の課題に対する独自の取組(北海道スタンダード)や、我が国経済社会の変化に応じた制度設計のフロンティアとなる、他地域にも共通する課題に対する北海道の特性を活かした先駆的・実験的取組を、我が国の経済社会づくりを<u>リード</u>する新たな北海道イニシアティブとして、積極的に推進する。</p>	<p>第3章 計画推進の基本方針</p> <p>第2節 計画の主要施策</p> <p>第2の戦略的目標である「森と水の豊かな北の大地～持続可能で美しい北海道の実現」のため、地球環境時代を<u>先導</u>し自然と共生する持続可能な地域社会を形成する施策に取り組む。</p> <p>[脚注] モビリティ:人の移動。また、移動のしやすさ。「モビリティの向上」とは、移動に要する時間の短縮や、移動の円滑さ、安全性の向上などを指す。</p> <p>第3節 計画の進め方</p> <p>2. 新たな時代を見据えた投資の重点化</p> <p>[脚注] <u>ライフサイクルコスト</u>:構造物の計画、設計から建設、維持・管理、解体撤去、廃棄に至る費用。</p> <p>3. 新たな北海道イニシアティブの発揮</p> <p>北海道の優れた資源・特性を活かし、全国画一ではないローカルスタンダード導入による、北海道固有の課題に対する独自の取組(北海道スタンダード)や、我が国経済社会の変化に応じた制度設計のフロンティアとなる、他地域にも共通する課題に対する北海道の特性を活かした先駆的・実験的取組を、我が国の経済社会づくりを<u>先導</u>する新たな北海道イニシアティブとして、積極的に推進する。</p>	<p>6</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>7</p>	<p>12</p> <p></p> <p></p> <p>24</p>

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>第4章 計画の主要施策</p> <p>第1節 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現</p> <p>2. 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興</p> <p>また、北海道における観光は、食にかかわる産業を始め他の産業分野の雇用を創出するなど波及効果が大きいことから、<u>地域におけるリーディング産業</u>としての役割が期待されている。</p> <p>(1)国際競争力の高い魅力ある観光地づくり <u>(地域固有の魅力を活かした個性豊かな観光地づくり)</u></p> <p><u>(ホスピタリティ向上のための社会基盤整備の推進)</u> 観光を始め多様な形での交流を拡大するには、<u>ホスピタリティの向上を図り、外国人や高齢者等が容易かつ円滑に旅行できるような観光地づくりを進めることが必要である</u>。特に、外国人観光客に対しては、言葉の壁を取り除くことが重要である。</p> <p>(2)<u>リーディング産業としての観光産業振興</u></p> <p>3. 東アジアと共に成長する産業群の形成</p> <p>(1)地理的優位性を活かした産業立地の促進</p> <p>また、<u>バイオエネルギー関連産業等の新たな産業の育成、自然エネルギー源を活用した大規模農産物貯蔵施設の整備と高品質な農水産物の輸出、国際物流関連企業の誘致を促進し、国際総合物流ターミナルの形成を図るなど、東アジア地域を視野に入れた取組を戦略的に推進する</u>。あわせて、他の土地利用についても検討しつつ、当該地域の開発を推進する。</p>	<p>第4章 計画の主要施策</p> <p>第1節 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現</p> <p>2. 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興</p> <p>また、北海道における観光は、食にかかわる産業を始め他の産業分野の雇用を創出するなど波及効果が大きいことから、<u>地域経済を先導する産業</u>としての役割が期待されている。</p> <p>(1)国際競争力の高い魅力ある観光地づくり</p> <p>観光を始め多様な形での交流を拡大するには、<u>来訪者を暖かく迎え、外国人や高齢者等が容易かつ円滑に旅行できるような観光地づくりを進めることが必要である</u>。特に、外国人観光客に対しては、言葉の壁を取り除くことが重要である。</p> <p>(2)<u>地域経済を先導する観光産業の振興</u></p> <p>3. 東アジアと共に成長する産業群の形成</p> <p>(1)地理的優位性を活かした産業立地の促進</p> <p>また、<u>バイオ燃料関連産業等の新たな産業の育成、自然エネルギー源を活用した大規模農産物貯蔵施設の整備と高品質な農水産物の輸出、国際物流関連企業の誘致を促進し、国際総合物流ターミナルの形成を図るなど、東アジア地域を視野に入れた取組を戦略的に推進する</u>。あわせて、他の土地利用についても検討しつつ、当該地域の開発を推進する。</p>	<p>10</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>11</p> <p>12</p>	<p>24</p> <p>30</p> <p>13</p> <p>23</p> <p>20</p>

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>(2)強みを活かした産業の育成</p> <p>(IT、バイオ、環境・エネルギー関連等成長が期待される産業の育成)</p> <p>また、水素エネルギーや風力、バイオマス等の自然エネルギーといった、北海道において優位性のあるクリーンエネルギーに関連する技術や、リサイクル関連産業を始めとする環境ビジネスに関連する技術について、産学官連携による研究開発や事業化・企業化を促進する。</p> <p>第2節 地球環境時代をリードし自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>(1)自然共生社会の形成</p> <p>(北海道らしい個性的な景観、自然とのふれあい空間の形成)</p> <p>(3)低炭素社会の形成</p> <p>(効率的なエネルギー消費社会の実現)</p> <p>また、運輸部門については、低公害車の導入、エコドライブの推進、市街地における渋滞対策、高規格幹線道路の利用促進、情報通信技術を活用した道路交通情報等の提供の充実、貨物の発着地に近い港湾の利用による陸送距離の短縮等を通じた効率的で環境にやさしい物流体系の構築(グリーン物流の推進)、公共交通の利用促進、船舶のアイドリングストップなど、環境負荷の少ない交通体系の構築を推進する。</p>	<p>(2)強みを活かした産業の育成</p> <p>(IT、バイオ、環境・エネルギー関連等成長が期待される産業の育成)</p> <p>また、風力、バイオマス等の自然エネルギーや水素エネルギーといった、北海道において優位性のあるクリーンエネルギーに関連する技術や、リサイクル関連産業を始めとする環境ビジネスに関連する技術について、産学官連携による研究開発や事業化・企業化を促進する。</p> <p>第2節 地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>(1)自然共生社会の形成</p> <p>(北海道らしい個性的な景観、自然とのふれあい空間の形成)</p> <p>[脚注] フットパス:その地域固有の自然や文化等に触れながら、歩くことを楽しむための道。</p> <p>(3)低炭素社会の形成</p> <p>(効率的なエネルギー消費社会の実現)</p> <p>また、運輸部門については、低公害車の導入、エコドライブ(環境負荷の軽減に配慮した自動車使用)の推進、市街地における渋滞対策、高規格幹線道路の利用促進、情報通信技術を活用した道路交通情報等の提供の充実、貨物の発着地に近い港湾の利用による陸送距離の短縮等を通じた効率的で環境にやさしい物流体系の構築(グリーン物流の推進)、公共交通の利用促進、船舶のアイドリングストップなど、環境負荷の少ない交通体系の構築を推進する。</p>	<p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>17</p>	<p>10</p> <p>1</p> <p>9</p>

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>第3節 魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり</p> <p>(2)都市における機能の強化と魅力の向上</p> <p>(冬も暮らしやすい生活環境の創造)</p> <p>また、冬期に都市で多発する歩行者の転倒事故を防止するため、歩道の段差解消や勾配緩和など歩行空間のバリアフリー化を推進するとともに、地域住民等との協働による滑り止め材の散布など冬期ボランティア・サポート・プログラムを推進する。</p>	<p>第3節 魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり</p> <p>(2)都市における機能の強化と魅力の向上</p> <p>(冬も暮らしやすい生活環境の創造)</p> <p>また、冬でも快適な歩行空間の確保を図るため、駅周辺部や公共施設周辺等において、冬期を考慮した歩行空間のバリアフリー化や地下を利用した歩行者用通路等の整備を推進するとともに、地域住民等との協働により、転倒事故を防止するための取組等を推進する。</p>	19	12
<p>第4節 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上</p> <p>(1)国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築 (高速交通ネットワークの強化)</p> <p>広域分散型社会を形成している北海道において、交流を支える基幹的な基盤である高規格幹線道路を始めとする基幹ネットワークの整備を推進するとともに、内外との交流基盤である新幹線、空港の整備を推進する。</p> <p>高規格幹線道路を始めとする基幹ネットワークについては、今後の具体的な道路整備の姿を示す中期的な計画に即して、主要都市間を連絡する規格の高い道路、拠点的な空港・港湾へのアクセス道路や国際競争力確保のための道路などに重点をおいて効率的な整備を推進する。</p> <p>北海道新幹線については、平成16年12月の政府・与党申合せ「整備新幹線の取扱いについて」に基づき、着工区間の着実な整備を進めるとともに、それ以外の区間について所要の事業を進める。</p> <p>航空については、海外との玄関口となる新千歳空港において国際空港機能の向上を推進する。また、その他の道内各空港についても、東アジア地域等との交流が緊密化・高頻度化していることを踏まえ、必要な国際空港機能の向上を図る。さらに、国内外の航空路線網の充実を支援するとともに、国際競争力の強化や空港背後地域の地域競争力強化、空港利用者の利便増進を図るための空港機能の高質化を推進する。</p> <p>また、新幹線と一体となった公共交通機関の利便性向上や空港へのアクセス強化などを推進し、交通機関相互が連携・連続した利便性の高い高速交通ネットワークの形成を図る。</p>	<p>第4節 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上</p> <p>(1)国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築 (高速交通ネットワークの強化)</p> <p>広域分散型社会を形成している北海道において、交通機関が相互に連携・連続した利便性の高い高速交通ネットワークの形成を図るため、高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークの整備を推進するとともに、内外との交流基盤である新幹線、空港の整備を推進する。</p> <p>高規格幹線道路を始めとする基幹ネットワークについては、今後の具体的な道路整備の姿を示す中期的な計画に即して、主要都市間を連絡する規格の高い道路、拠点的な空港・港湾へのアクセス道路や国際競争力確保のための道路などに重点をおいて効率的な整備を推進する。</p> <p>北海道新幹線については、平成16年12月の政府・与党申合せ「整備新幹線の取扱いについて」に基づき、着工区間の着実な整備を進めるとともに、それ以外の整備計画区間である新函館・札幌間について所要の事業を進める。</p> <p>航空については、海外との玄関口となる新千歳空港において国際空港機能の向上を推進する。また、その他の道内各空港についても、東アジア地域等との交流が緊密化・高頻度化していることを踏まえ、必要な国際空港機能の向上を図る。さらに、国内外の航空路線網の充実を支援するとともに、国際競争力の強化や空港背後地域の地域競争力強化、空港利用者の利便増進を図るための空港機能の高質化を推進する。</p>	20	31

新たな計画(素案)[第10回北海道開発分科会(H20. 2. 20)資料]	新たな計画(案)	頁	行
<p>(2)地域交通・情報通信基盤の形成</p> <p>(地域の実情に即したモビリティの確保)</p> <p>(情報通信体系の整備と利活用の促進)</p> <p>付記 施策の推進に当たっては、「政策の企画立案→実施→評価→改善」というマネジメントサイクルに沿って政策評価を積極的に進め、主要施策、期間等について弾力的運用又は必要に応じた見直しを図るとともに、道州制の導入など内外の変革を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを図るものとする。</p>	<p>(2)地域交通・情報通信基盤の形成</p> <p>(地域の実情に即したモビリティの確保)</p> <p>[脚注] <u>コミュニティバス:公共交通が空白または不便な住宅地区などで、高齢者や体の不自由な方にも安全で利用しやすく、地域住民の多様なニーズにきめ細やかに対応する地域密着型バスシステムのこと。</u></p> <p>(情報通信体系の整備と利活用の促進)</p> <p>[脚注] <u>無線アクセスシステム:無線ネットワークを用いてインターネット接続(データ伝送)を行う仕組みの総称。</u></p> <p>付記 施策の推進に当たっては、「政策の企画立案→実施→評価→改善」というマネジメントサイクルに沿って政策評価を積極的に進め、主要施策、期間等について弾力的運用又は必要に応じた見直しを図るとともに、<u>計画策定からおおむね5年後に計画の総合的な点検を行う。また、道州制の導入など内外の変革を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを図るものとする。</u></p>	<p>22</p> <p>22</p> <p>27</p>	<p></p> <p></p> <p>1</p>